

ティー・ロウ・プライス 米国オールキャップ株式ファンド

運用責任者、来日講演特別オンラインセミナーサマリー

不透明な投資環境を生き抜く 時代の変化と成長を取り込む運用とは

お客さま向け資料
2023年2月

“私たちの目標は、投資家のみなさまに一貫したパフォーマンスを提供することです。私たちは、毎年、優れたパフォーマンスを提供することが重要であることを深く理解しています。”



運用責任者 ジャスティン・ホワイト CFA®
運用経験年数：14年
2021年 米モーニングスター「ライジング・トレンド賞*」ノミネート、株式部門の運用者で唯一選出

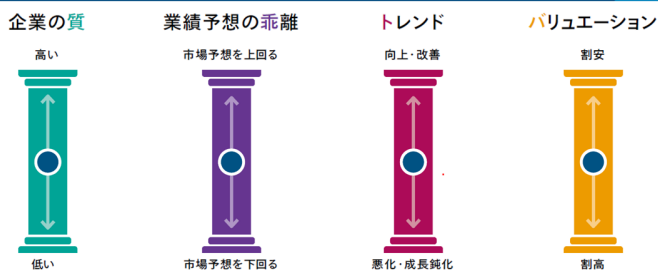
「CFA®」及び「Chartered Financial Analyst®」は、CFA Instituteの登録商標です。

当ファンドの運用についてご説明ください。

小型株から大型株まで、グロース株からバリュー株まで幅広い時価総額や投資スタイルの銘柄に投資します。柔軟性は大きなメリットです。市場や経済環境の変化に応じてポートフォリオを柔軟に変更でき、不必要なリスクを負わずに投資パフォーマンスを向上させることが期待できます。例えば、多くのグロース株がダメージを受ける2022年以前にグロース株の保有比率を減らしました。



個別銘柄の“変化を捉える”4本の柱（イメージ）



・上記はイメージです。
・上記は、当資料作成時点における視点を示しており、今後、市場環境の変化等により予告なく変更される場合があります。

個別銘柄の変化を捉えるためにどんな工夫を？

この運用が有効な理由は「4本の柱」と呼ぶ銘柄選択のフレームワークにあります。「4本の柱」は投資家が銘柄を買いたくなる要因を集約したものです。それらは、「企業の質」「業績予想の乖離」「トレンド」「バリュエーション」の4本柱です。スコアが高いほど銘柄に対する確信度は高くなり、経験則からその銘柄が良好なパフォーマンスとなる可能性が高いことを意味します。

リサーチ力が鍵。ティーロウ・プライスの調査力は？

ティー・ロウ・プライスのような調査規模や調査歴の長さを持つ運用会社は少なく、経営陣へのアクセスは強固です。企業との関係は何十年にもわたって培われてきたもので、多くの競合他社には真似できないものです。例えば毎年シリコンバレーにアナリストが集団で調査出張し、何十社ものテクノロジー企業の経営陣と面会します。2022年12月の調査出張では、アップルのCFO、メタ・プラットフォームズ（旧フェイスブック）やエヌビディアのCEO・CFOなどと対話しました。

グローバルに展開する株式リサーチプラットフォーム



10拠点に株式アナリスト201名を配置

・2022年9月末時点。当ファンドが活用するリサーチ・プラットフォームの拠点と株式アナリストの人数。

- * 新進気鋭の運用責任者に与えられる賞。ポートフォリオ運用歴が7年未満で、その間に優れた運用成績を残した運用者に与えられます。
- ・ 将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。
- ・ 引用した個別銘柄等は情報提供を目的として記載したものであり、特定の国・地域、業種、個別銘柄を推奨するものではありません。
- ・ 上記は作成時点の見直し・分析であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。



“私は4本の柱のフレームワークを堅持し続けることで、さまざまな市場環境を通じてお客さまに満足いただけるパフォーマンスを提供できると信じています。”

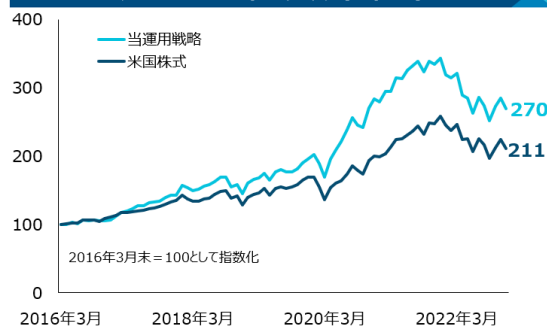
運用責任者になってからのパフォーマンスは？

2016年4月に当運用戦略の運用責任者となりました。2022年末時点の就任以来の実績は、S&P500の111%上昇に対し、当運用は170%上昇しました。過去10年間、上昇相場でも下落相場でも良好なパフォーマンスを残しています。良好な実績の理由は、運用方針の柔軟性にあると思います。例えば、グロース株が急落する前にバリュー株を組み入れることができた数少ない運用戦略の一つと自負しています。

ここ数年の幾度かの市場ショックをどう乗り越えた？

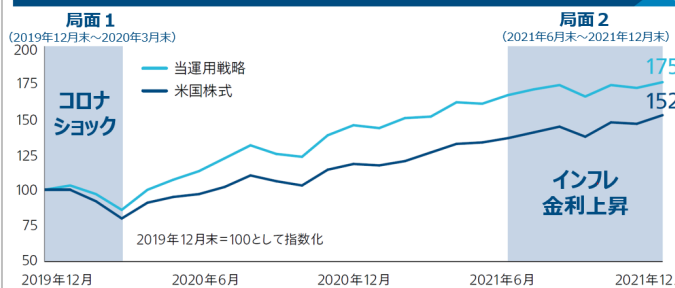
例えば、2020年のコロナショック初期に、市場が下落するなかアマゾン・ドット・コムを買いました。人々が家に引きこもり、オンライン商品に向かうとの見通しから収益はコンセンサス予想を大きく上回ると予測し「業績予想の乖離」の柱がプラスを示しました。「トレンド」の柱もクラウド事業が恩恵を受け収益成長が加速する見通しから強いポジティブに転換しました。同銘柄を2020年3月に90米ドル前後で購入し、その後155米ドル前後で売却しました。また、当運用で2021年9月から10月にかけて、メタ・プラットフォームズ（旧フェイスブック）を330米ドル前後で全売却しました。売却に至った理由は、「企業の質」が心配だったことです。TikTokとの競争激化です。「業績予想の乖離」もデジタル広告需要の減速によりコンセンサス予想を下回るリスクを察知しました。「トレンド」の柱も、非常にネガティブでした。新型コロナウイルスの感染収束による需要後退、アップルの広告規制強化などからファンダメンタルの傾向は悪化方向を懸念しました。

当運用戦略パフォーマンス（就任来）



出所：S&Pのデータを用いてティール・ロウ・プライスを作成。
 期間：2016年3月末～2022年12月末（月次）
 ・当運用戦略のパフォーマンスは米国籍ファンドの米ドルベースの月次リターン（分配金再投資、費用控除後）を、米国株式はS&P500インデックス（トータルリターン、米ドルベース）を用いています。
 本ページで示した運用実績は、当ファンドが実質的に採用する運用戦略で運用されている米国籍ファンドのものであり、当ファンドのものではありません。また、当ファンドの将来の投資成果を示唆または保証するものではありません。

当運用戦略と米国株式の推移



出所：S&Pのデータを用いてティール・ロウ・プライスを作成。期間：2019年12月末～2021年12月末（月次）
 ・当運用戦略のパフォーマンスは米国籍ファンドの米ドルベースの月次リターン（分配金再投資、費用控除後）を、米国株式はS&P500インデックス（トータルリターン、米ドルベース）を用いています。
 ・引用した個別銘柄等は情報提供を目的として記載したものであり、特定の国・地域、業種、個別銘柄を推奨するものではありません。
 本ページで示した運用実績は、当ファンドが実質的に採用する運用戦略で運用されている米国籍ファンドのものであり、当ファンドのものではありません。また、当ファンドの将来の投資成果を示唆または保証するものではありません。

株式市場が底打ちしたと確信できれば・・・

- 中小型株 ➡
- 景気敏感銘柄 ➡
- ヘルスケアセクター... ➡
- 生活必需品／公益セクター... ✕

今後の市場環境をどのように見えていますか？

現在、不透明感が強く、保守的な運用方針としています。具体的には「企業の質」と「バリュエーション」の柱を重視した銘柄構成としています。理由は、「業績予想の乖離」と「トレンド」の2つの柱で警戒シグナルが示唆されているからです。一方、中長期視点では、相場の底値圏で投資できれば、多くの投資リターンが得られることを歴史が示しています。私はその時期の見極めに重点を置いています。底値圏との確信が強まれば、市場との連動性が高い銘柄を選好し、中小型銘柄を増やし、ディフェンシブ銘柄を減らすと思います。

・ 将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。
 ・ 引用した個別銘柄等は情報提供を目的として記載したものであり、特定の国・地域、業種、個別銘柄を推奨するものではありません。
 ・ 上記は作成時点の見通し・分析であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンドの特色

1

ティー・ロウ・プライス 米国オールキャップ株式マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)への投資を通じて、主として米国の株式の中で、成長性が高いと判断される企業や、企業の本質的価値に比較して過小評価されていると判断される企業の株式等に投資を行います。大型株式から小型株式まで幅広い時価総額規模の企業を投資対象とします。なお、米国以外の企業にも投資する場合があります。

2

銘柄選択に関しては、個別企業分析に基づく「ボトム・アップ・アプローチ^{*1}」を重視した運用を行います。個別企業分析にあたっては、ティー・ロウ・プライス^{*2}のアナリストによる独自の企業調査情報を活用します。

^{*1} ボトム・アップ・アプローチとは、アナリストの個別企業に対する調査や分析等に基づきその企業の投資価値を判断し、個別銘柄を選択する運用手法です。

^{*2} 委託会社およびその関連会社をいいます。

3

実質外貨建資産について、原則として対円で為替ヘッジを行いません。

※市場動向、資金動向、信託財産の規模等により、上記のような運用ができない場合があります。

※上記は当ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色を含みます。

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。当ファンドが有する主たるリスク(ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドが有するリスクを含みます。)は以下の通りです。

株価変動リスク

当ファンドは、実質的に米国の株式を主要な投資対象としますので、その基準価額は、株式(米国預託証券(ADR)等を含みます。)の値動きにより、大きく変動することがあります。株価は、発行企業の業績、市場での需給関係、政治・経済・社会情勢等の影響を受けて、ときには大きく変動します。発行企業が経営不安や倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。

中小型株投資リスク

当ファンドは中小型株も投資対象としますが、時価総額が小さい企業の株式は、大規模企業の株式に比べ価格の変動性(ボラティリティ)が高い傾向があります。こうした企業は、十分な資金を確保できない、業歴が短い、事業内容が多様ではないなどの理由から事業後退のリスクが高くなる可能性があり、ファンドの基準価額に影響します。

為替変動リスク

当ファンドは、原則として対円で為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接受けます。したがって、為替相場が円高方向に進んだ場合は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、為替相場は大きく変動する場合があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。	その他	信託期間	原則として無期限(設定日: 2022年11月28日)
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。		繰上償還	次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(繰上償還)することがあります。 ・受益権口数が30億口を下回ることとなった場合 ・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき ・正当な理由があるとき
	購入代金	販売会社の定める期日までにお支払いください。		決算日	毎年5月15日(休業日の場合は翌営業日) ※初回決算日は2023年5月15日の予定です。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。		収益分配	年1回の決算時に、分配方針に基づいて分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。 ※販売会社によっては、分配金の再投資が可能です。
	換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお申込みの販売会社でお支払いします。		信託金の限度額	1兆円を上限とします。
申込について	換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、委託会社の判断により、別途制限を設ける場合があります。		公告	公告を行う場合は日本経済新聞に掲載します。
	購入・換金申込不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行の休業日には、お申込みの受付は行いません。		運用報告書	年1回(5月)の決算時および償還時に、期中の運用経過などを記載した交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に対して交付します。
	購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情等があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。 なお、主要投資対象市場の規模・流動性等を勘案し、購入のお申込みの受付を制限することがあります。		課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 税法上、公募株式投資信託は少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。 配当控除の適用はありません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
購入時手数料	購入時手数料は購入金額に応じて、以下の手数料率を購入価額に乗じた額になります。	運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に対し、 年1.5675%(税抜1.425%) の率を乗じた額が運用管理費用(信託報酬)として毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期の最初の6ヵ月終了日(休業日の場合は翌営業日とします。)および毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。	
	1億円未満 …………… 3.30%(税抜3.0%)		信託事務の諸費用等	法定書類等の作成等に要する費用(有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成、印刷、交付および提出にかかる費用)、監査費用等は、ファンドの純資産総額に対して年率0.11%(税抜0.1%)を上限とする額が毎日計上され、毎計算期の最初の6ヵ月終了日(休業日の場合は翌営業日とします。)および毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。
	1億円以上3億円未満 …………… 1.65%(税抜1.5%)			その他の費用・手数料
3億円以上 …………… 0.55%(税抜0.5%)	信託財産留保額	ありません。	売買委託手数料等	

※上記の手数料・費用等の合計額等については、投資者のみなさまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

投資信託および当資料に関する注意事項

- 当資料は、ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社が作成したお客さま向け資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性あるいは完全性について保証するものではありません。
- 当資料における見解等は資料作成時点のものであり、将来事前の通知なしに変更されることがあります。また、当資料で示したデータ等は、情報提供を目的として掲載したものであり、将来の投資成果を示唆、または保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります）を投資対象としているため、お客さまの資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。
- ご購入の際は投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時にお渡ししますので、必ずお受け取りのうえ、内容をよく読み、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、預金や保険契約ではありません。また、預金保険機構や保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。購入金額については、元本および利回りの保証はありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 「T. ROWE PRICE, INVEST WITH CONFIDENCE」および大角羊のデザインは、ティー・ロウ・プライス・グループ、インクの商標または登録商標です。当資料はティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社の書面による同意のない限り他に転載することはできません。

収益分配金に関する留意点

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

販売会社・運用会社

お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は

商号等			加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
みずほ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第94号	○	○	○	○
株式会社みずほ銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第6号	○		○	○
みずほ信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第34号	○	○	○	

設定・運用は

T.Rowe Price 

ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3043号
 加入協会：一般社団法人 日本投資顧問業協会
 一般社団法人 投資信託協会